

## 第 章 まちの将来像とフレーム

## 1 . まちの将来像の設定

### 1-1 まちづくりの理念と将来像

本市は秩父多摩甲斐国立公園の入口に位置し、市街地の近くに山地や丘陵地、崖線の緑や湧水、秋川・平井川・多摩川の水辺の広がりなど、豊かな自然を身近に感じられるまちです。

これら豊かな自然を有する素晴らしい環境を、様々な視点から次世代につなげるため、協働、共生、保全を基本姿勢に、自然環境を保全する取組を市民・事業者とともに推進することにより、「豊かな緑に恵まれた東京のふるさと」を守り、育て、環境都市あきる野の実現を目指します。

平成 21 年度には「郷土の恵みの森構想」を策定し、本市の特色であり、魅力となっている森などの自然を守り、将来にわたって引き継いでいくため、市民や事業者などとの協働による自然の保全と活用の仕組みづくりを始めとした取組を進めています。

一方、秋川駅北口地区は、中心市街地として商業・文化施設が充実するとともに、圏央道インターチェンジ周辺地区は、整備効果により交通利便性が飛躍的に向上し、新たな都市機能の集積が見込まれるため、都市としての発展が期待されています。

このようなことから、農地や森などの保全を図るとともに、計画的な基盤整備を実施することにより、まとまりのある良好な市街地を形成し、自然環境と都市機能のバランスのとれた持続的発展が可能な都市づくりを進めます。

また、「あきる野市総合計画 基本構想」の将来都市像である『人と緑の新創造都市』の実現に向けた計画として、豊かさや活力のある都市の創造、豊かな自然と人との共生による文化の創造、安心して暮らせる魅力ある社会の創造を目指します。

そこで、都市に生きる人々の活力とやさしさを感じ、いつまでも住み続けたいと思うまち、ふるさととして愛着を感じ、心豊かな人が育つまちの実現を目指して、まちの将来像を『活力と豊かさに満ち、自然に抱かれたまち・あきる野』とします。

活力と豊かさに満ち、自然に抱かれたまち・あきる野  
～いつまでも住み続けたいまち～

## 1-2 まちづくりの目標

まちの将来像を実現し、いつまでも住み続けたいまちをつくるため、4つのまちづくりの目標を設定します。

## (1) 自然の恵みが実感できる都市

## 自然環境や生態系を大切にすまちづくり

本市は、国立公園や自然公園に指定されている山地や丘陵地、秋川・平井川・多摩川などの水辺や崖線の緑とそこに息づく動植物など、豊かな水と緑の自然環境と生態系に囲まれています。

これらの自然環境や生態系は一度失われると回復することは難しく、かけがえのないものであることから、これらを大切にするとともに、地球温暖化防止対策を推進することにより、環境への負荷の少ないまちづくりを進めます。

## 自然とふれあい、自然の恵みに支えられるまちづくり

本市は、秋川渓谷や秩父多摩甲斐国立公園が主な観光地になっており、首都圏を対象とした日帰りのできる観光レクリエーション資源に恵まれています。この緑豊かな自然を活かした新たな観光の拠点づくりや市民農園・体験農園における都市交流型農業の育成などを進めるとともに、公園や道路、家庭内の緑化の推進などによる花と緑の空間づくりや湧水を活かした水辺づくりを進め、身近な自然に触れられるまちづくりを進めます。

## (2) 暮らしやすさが実感できる都市

## 住み続けたい魅力あるまちづくり

本市の住宅は戸建て住宅が大半を占めており、定住性の高い住宅地を形成しています。今後は、少子高齢社会の進行に合わせ、子どもからお年寄り、障がい者などが安心して暮らせるよう、安全で快適な都市基盤の整備や、子育て世代を始めとする若年層の定住を促す魅力的な都市環境の充実など、住む人にやさしく、魅力のあるまちづくりを進めます。

## 歩きたくなるまち、交流が生まれるまちづくり

秋川駅周辺は商業・文化などの拠点であり、武蔵五日市駅周辺は観光レクリエーションの玄関口になっています。

今後は、新たに魅力的な都市機能を持った拠点の形成や利便性の高い交通基盤の整備、美しい街並み空間づくり、バリアフリーの導入などを進め、歩きたくなるまち、人々の交流が生まれるまちづくりを進めます。

( 3 ) まちの活力が実感できる都市

地域の活力を生むまちづくり

本市は、東京都の掲げる多摩西部地域の圏央道沿いを対象とした「多摩シリコンバレー構想」に位置付けられています。

今後更なる産業面での大きな発展が期待できる圏央道の整備効果を活かして、インターチェンジ周辺での基盤整備を進め、地域の活力を生む新たな産業の誘致と既存企業の育成を図ります。

地域の特色を活かすまちづくり

にぎわいのある商業環境や新たな観光拠点づくり、都市的農業の推進による魅力ある農業の育成、憩いと安らぎの場となる森林の整備など、地域の産業を育成するまちづくりを進めます。

( 4 ) 市民の活力が実感できる都市

市民が主体的に参加するまちづくり

まちづくりを進めるためには、市民・企業・行政がそれぞれの役割と責任を果たす協力関係（協働）が必要です。その中で、市民が様々な分野に幅広く参加できるように、情報の公開や参加機会の増加などの開かれたまちづくりを通して、各種事業の実現化に向けて市民が主体的に参加するまちづくりを進めます。

また、市民が主体的に参加するまちづくりの取組については、側面的な支援を行います。

## 2 . 将来フレーム

### 2-1 将来フレーム

全国的な少子高齢社会の進行の中で、我が国の人口は緩やかに減少していくと想定されています。

本市においても、これまで人口は増加傾向で推移してきたものの、流入人口の減少や少子高齢化等により、増加数は年々縮小するものと想定され、国立社会保障・人口問題研究所による『日本の市区町村別将来推計人口』（平成 20 年 12 月推計、基準年：平成 17 年）では、平成 27 年の 80,846 人をピークに減少に転じると推計されています。

しかし、今後は圏央道や都市計画道路の整備、JR 五日市線の改善による交通利便性の向上、土地区画整理事業による都市基盤の整備、魅力ある拠点づくり、産業の振興などによって、若年層の定着を図るまちづくりを進め、持続的なまちの発展に向けて少子化傾向に歯止めをかけるとともに、人口の増加を図っていきます。

また、平成 22 年 4 月現在の人口は 81,739 人（住民基本台帳）となっており、推計値を約 1,000 人上回っていることから、将来人口の見通しについては、平成 27 年を約 82,000 人、平成 32 年を約 83,000 人と設定します。

	平成 17 年 (基準年)	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	備考
国立社会保障・人口問題 研究所推計値	79,587 人	80,678 人	80,846 人	80,283 人	-
実績値を加味した推計値	-	81,739 人 (実績値)	81,909人 <sup>1</sup>	81,339人 <sup>1</sup>	
新市街地予定区域 等における推計値	-	-	320 人	1,400 人	
参 考 値	-	-	82,229 人	82,739 人	+
目 標 人 口	-	-	82,000 人	83,000 人	-

1：平成 22 年度の推計値 に対する実績値 から伸び率を算出し、それぞれ平成 27・32 年度の推計値を求めたものである。

## 3 . 将来都市構成

計画的なまちづくりを進めるに当たり、まちづくりの理念やまちの将来像を踏まえながら、骨格となる軸の構成、拠点の構成、骨格となる土地利用の構成を次のように設定します。

### 3-1 骨格となる軸の構成

#### ( 1 ) 都市軸

鉄道や道路などの沿線に市街化が進み、都市機能が集積する軸状の都市空間を都市軸といいます。都市軸は都市形成の土台となり、都市が発展し、利便性の向上を図る上で中心になる部分であり、この軸を形成する都市基盤の整備を進めることが大切です。

そのため本市では、JR五日市線や秋3・3・3号新五日市街道線（五日市街道、檜原街道）沿線、国道411号（滝山街道）沿線や秋川駅周辺などを都市軸と位置付け、都市基盤施設の整備や市街地の形成を進めます。

#### ( 2 ) 交通軸

圏央道や都市計画道路などの幹線道路は、周辺都市との連絡を強化するとともに、はしご状の交通網の形成により、市内における円滑な交通環境の整備を進めます。

また、JR五日市線は、複線化及び各駅施設の改善や運行体制の強化など、交通環境の整備を促進します。

#### ( 3 ) 水辺軸

秋川・平井川・多摩川などの河川は、本市の水と緑を代表する軸状の水辺空間です。水辺軸ではその自然環境を保全するとともに、水と親しめる施設整備とレクリエーション機能の向上を図ります。

### 3-2 拠点の構成

#### (1) 交流拠点

##### 秋川駅周辺

秋川駅周辺は、本市の商業核として商業施設などの充実を進めながら、文化レクリエーション機能の拠点として、市内外の人が集うにぎわいと活気のある空間づくりを進め、文化や生活情報発信の場の形成を図ります。

##### 武蔵五日市駅周辺

武蔵五日市駅周辺は、かつて平地と山地の物資交換の“市”(地名の語源ともなっています。)としてにぎわいました。これらの街並みや歴史的背景を商業の活性化に活かしていくとともに、秋川渓谷や秩父多摩甲斐国立公園などの首都圏有数の自然環境豊かな観光レクリエーションゾーンへの玄関口として整備を進めます。

#### (2) 生活拠点

##### 東秋留駅周辺

東秋留駅周辺は、歩きやすく安全な生活道路の整備や沿道の緑化、北口商店街の充実など、日常的な暮らしに必要となる都市機能の充実を図るため、修復型のまちづくりを基本とした街並みや商業環境の整備を進めます。

##### 武蔵増戸駅周辺

武蔵増戸駅北口地区は、農業等との十分な調整を図りつつ、土地区画整理事業の実施により良好な市街地の整備を進めます。

武蔵増戸駅南口地区は、歩きやすく安全な生活道路の整備、商店街の充実など、日常的な暮らしに必要となる都市機能の充実を図るため、街並みや商業環境の整備を進めます。

#### (3) 産業拠点

##### 旧秋川高校周辺

秋川高校跡地を中心とする、豊原地区から武蔵引田駅周辺地区までの区域は、圏央道日の出インターチェンジに近接する高い交通利便性や中心市街地である秋川駅北口地区に近接していることなどを活かし、雇用の創出、地域経済の拡大及び流入人口の誘導などに向け、既存の製造業やIT関連、物流関連施設等の産業の誘致と、企業の育成を図る拠点として整備を進めます。

### (4) 観光レクリエーション拠点

十里木・長岳

「秋川渓谷瀬音の湯」を中心とした観光レクリエーションの拠点として、地域の経済やコミュニティの活性化の役割を担う自然豊かな景観の整備を進めます。

### (5) 緑と憩いの拠点

秋留台公園、草花公園、小峰公園、網代緑地、金比羅山周辺風致公園、大澄山周辺緑地を市民の憩いとレクリエーションの場となる緑と憩いの拠点として位置付け、「郷土の恵みの森構想」と整合を図りながら、一層身近に緑とふれあうことができるよう地域に調和した整備を進めます。

## 3-3 骨格となる土地利用の構成

### (1) 市街地

住宅地、商業・業務地及び工業地など、都市的土地利用が図られている区域及び今後都市的土地利用を図っていく区域を「市街地」と位置付けます。

### (2) 農地

農業振興地域の農用地区域（農振農用地）及び秋川・平井川沿いの農地など、まとまった優良な農用地は「農地」として位置付けます。

### (3) 緑地

秩父多摩甲斐国立公園を含む山地や秋川丘陵・草花丘陵などの丘陵地、秋川・平井川・多摩川などの水辺とその沿岸にある崖線などのまとまった緑を「緑地」として位置付けます。

あきる野市の街並み





● 将来都市構成図

